

## 論文内容要旨

### Analysis of factors related to tongue pressure during childhood (幼児の舌圧に関連する因子の検討)

Dental, Oral and Craniofacial Research (DOCR) (3 巻・7 号・1-8・2017)

歯学専攻 口腔衛生学 浅見拓哉

#### 内容要旨

【目的】食事や発音をする際に、舌と口蓋が接触することで生じる舌圧は、舌の筋力を評価するうえで有効な指標とされている。しかし、幼児の舌圧測定の結果は少ない。そこで、本研究では、幼児を対象に舌圧測定を実施し、幼児期における舌圧の変化と、舌圧に関連する因子について明らかにすることを目的に調査を行った。

【対象・方法】保育園に通う幼児 236 名のうち、舌圧測定が実施困難だった児 27 名と実施可能であった児 209 名を対象に、保護者へのアンケートの実施、握力、体組成、咬合力、舌圧、舌の厚みの測定を行った。舌圧は JMS 舌圧測定器®を用いて行った。

【結果】舌圧 (kPa) は 3 歳児:  $11.8 \pm 7.7$ 、4 歳児:  $16.7 \pm 7.5$ 、5 歳児:  $22.1 \pm 9.5$ 、6 歳児:  $25.4 \pm 8.2$  であり、年齢と有意に相関した。また、舌圧は身長、体重、握力、骨格筋量と有意な相関を示した。咬合力と舌の厚みとは、有意な相関は認めなかった。

【考察】最大舌圧は年齢とともに増加を示した。また、舌圧は握力と関連を示し、舌圧は身体機能や全身の筋力との関連性が示唆された。